

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

## 直面する3つの逆風 (「地銀」のこれから)

報道などによると、親和銀行(九州は長崎県佐世保市に本拠を置く第一地銀)とその親会社である九州親和ホールディング(HD)に入った金融庁検査が丸1年経った今でも未だ終わっていない。不良債権処理も峠を越したと云われるこの時期、一地銀としては異例の長きに渡って行われている検査は何を意味しているのだろうか。地元では「出口の見えない検査」に不安と緊張の日々が続いているという。

一方、北洋銀行(北海道は札幌に本拠を置く第二地銀)頭取は、財政が破綻した夕張市が9月末にかけ18億円強資金不足に陥ることについて「国や道の保証」を条件に追加融資に応じる考えを明らかにした。そして、一部で浮上している金融機関の貸し手責任論に対し、「責任があると言うなら、金融機関に何らかの原因があるはずだ。原因はない」と反発、地公体への融資に何の責任のないことを強調した。

そこには、(バブル崩壊以降)不良債権比率を下げる最も手っ取り早い方法が地公体への貸出増強だったという現実は見えてこない。信じられないことだが、多分、夕張市への貸出金は今も不良債権に区分されてはいない筈である。

実は、金融関係の色々なデータに触れてきた中、時折気になっていたデータがある。それは地銀の数の推移を示すデータである。下表がそのデータであるが、貴方はどう思うだろうか。

	95年3月	06年3月	増減
第一地銀	64	64	0
第二地銀	68	47	21

オーナー色が強く広域展開してきた銀行も少なくない第二地銀は別として、第一地銀は、大手銀行や証券、生損保等がすっかり数も名前も変えたこの十数年の激変期、1行も数を減らしていないのだ。かつて、時の大蔵大臣が「大手15行は1行たりとも潰さない」と明言したのを今でもはっきり覚えているが、今思えば大臣は「大手行」と「第一地銀」を取り違えてしまった。

いずれにせよ、1行も減っていないという事実は、私達に「地銀って強いんだな」と再認識させる一方、地銀の再編は「むしろこれから」と思わ

せるに十分なものがある。

地銀の強さは、地域に根を張り、地域の個人、法人、公的機関から絶大な支持を得ている所にあることはおそらく誰しも認める所である。しかし、時代の変革期には強みが弱みに変転してしまうことは珍しくない。今、地銀が直面している逆風もその類で、私が見るところ3つある。

第一は、地域間競争の激化である。IT革命進展により時間・空間の壁が低くなった上、高速道、高速鉄道網の整備が進み、その上人口減が重なって地域間の競争状況はかつてなく激化しているように見える。そう見ると、競争に遅れた地域に基盤を持つ地銀の「地元密着戦略」は、足枷になりかねない側面を持っている。

今、有力地銀は「県外」や「都市圏」に出て行くこうとしているが、地域密着でやってきた地銀が地域の顧客を捨てることは簡単ではない。

第二は、地公体、その外郭団体、そして三セクの債務深刻化である。第一地銀の多くは、地公体の指定金融機関となっている。かつて競って「指定」を取りにいった地公体という金城湯池は、今や放蕩息子に近い存在となっている。放蕩息子への追い貸にいつまで応じるのか、難しい判断を下さねばならない時期が近づいている。

第三は、資金需要の低迷と保有債券の含み損拡大である。国内経済は、よく云われているように息の長い拡大局面にある。しかし、それは大企業、製造業を中心とした話で、グローバルな分断の時代にあって国内非製造業は苦戦しているところは少なくない。そして、その多くは地銀の顧客である。大手銀行を含めた金融機関同士の競争激化は更に進み、収益源である貸出を伸ばすのは容易ではない状況が常態化する。

しかし、といて、ここ十数年の収益源だった国債を中心とした債券投資も、金利が上昇に転じる中、かつてなく難しい局面に入っている。既に今年3月期決算では、多くの地銀で保有債券に含み損が生じている。これから地銀は債券投資とどう向き合うのだろうか。

何云ってるんだ! そう思うかもしれない。この地銀への悲観論が的外れに終わることを私自身も願っているが、これからの10年、地銀は大分姿形を変えるような気がしてならない。  
(レポート、来週は休みます)

Weekly Fax Report

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

URL: [http://www.hi-ho.ne.jp/smc\\_toyo/](http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/)

2006.8.5(第522号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: [smc\\_toyo@hi-ho.ne.jp](mailto:smc_toyo@hi-ho.ne.jp)